CONSERVATION VOLUNTEERS Vol. 8

発行：特定非営利活動法人日本環境保全ボランティアネットワーク（略称：ＪＣＶＮ）

巻頭言____環境保全活動への地域の巻き込み方を考える *p 1*
特集_____2014/2/11:「再生する海岸林」
リーダーミーティングを終えて *p 3*
総会報告__これからの活動に向けて *p 6*
お知らせ__リーダートレーニング研究会のご案内 *p 8*
JCVNのニホンミツバチの蜂蜜販売について

巻頭言「環境保全活動への地域の巻き込み方を考える」

朝廣和夫（JCVN 副理事長、九州大学大学院芸術工学研究院環境デザイン部門准教授）

■地域の巻き込み方（Involving local community）を考えるプログラム構成

１）BTCV（現 CVT）のプログラム

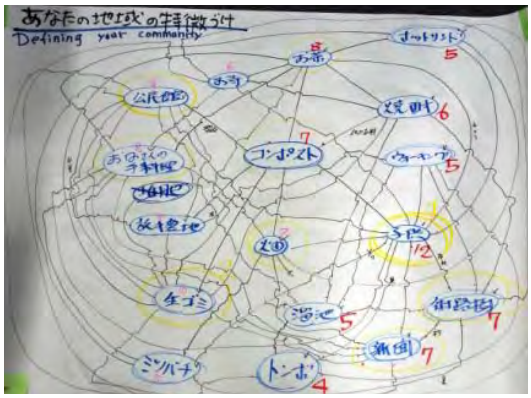
環境保全活動を展開する一つの目的は、地域の自然環境・生活環境を改善することです。しかし、一人で夢を描いても実現できるものではありません。理念を共有する仲間を増やし、その上で、地域の関与者と関係を作り活動を行うことが大切です。2004 年、私は BTCV（英国環境保全ボランティアトラスト）を訪ね、彼らの提供する標記のリーダートレーニングに参加しました。多民族が住む英国では、地域に潜む人々の間の壁を、保全活動に巻き込むことで理解を広げ取り払う努力が行われています。彼らのトレーニングの対象は、樹木管理官、コンポストアドバイザー、また環境保全家で、彼らの仕事を支援してもらうために地域の人々の参加を考えることにあります。コースの目的は、保全活動により、地域の連帯感を促進し、より広く、地域内外から参加を得るために、保全活動への認識をどのようにして高めていくか、また、どのように地域社会の参加を得て、安全管理を行うかについて議論することとされていました。右に一日のプログラムを英語・日本語で列記してみます。

開催日時:2004 年 9 月 11 日
開催場所:Coldharbour Farm, Wye.
講師:Mike Phillips.
Arrival & Refreshments　Welcome and introductions 挨拶と紹介/ Defining Your Community あなたの地域の特徴づけ/ Why involve the community ? なぜ、地域社会の参加を得るのか/ Levels of Participation「参加」のレベル/ Involving Children　子供の参加/ Ways to involve the community- What works for who & why?　地域社会の参加の得方。/ Publicity 広報/ Funding 資金調達/ Project organization and safely　活動の組織と安全な実施/ Maintaining the Project　活動の管理/ Planning a Project　活動の計画/　Final questions & depart

内容としては、まずは、地域の人々と環境の関係を捉え、地域の人々と保全活動の関係を考えていく。そして、1970 年代に Sherry Arnstein により考えられた「ladder of participation：参加の梯子」を引用しながら、保全活動を行う対象を絞り込み、具体的な活動展開に必要なプログラム、広報、資金確保、安全管理などについて技能を修得する参加・体験型のトレーニングプログラムになっていました。

■研究会の概要

2014年1月27日に行われたJCVNのリーダートレーニング研究会は、本テーマを取り上げ、NPO法人循環生活研究所の平理事長（JCVN理事）より、コンポスト活動における地域とコンポストアドバイザーの活動のポイントなどの紹介が行われました。また、朝廣からは、コンポストアドバイザー育成講座で実施している、「コミュニティーと、その繋がりを考える」プログラムの紹介を行いました。このプログラムは、地域を構成するカードを参加者に渡し、コミュニティーと思われる相手を探し、その関係を確認しながら繋がりを考えるワークです。最後は、参加者に話を聞きながら右のダイアグラムを白板で完成させます。意図開きは、地域は既存組織だけでなく、様々なコミュニティがあること。それらの繋がりは、様々な構成員を通じて、全てつながっていること。地域を巻き込むには、構成員の興味や課題の改善に寄与するプログラムを提供し、地域を巻き込むことなどです。なお、講座には約20名の参加があり、アンケートでは、参加型のプログラム、地域の繋がり方への理解に良いコメントをいただいた一方、「地域を巻き込むには」というテーマに対する不足や、関係者の課題や興味の中から地域の関係性を考えるべきだったなど、多数の改善点をいただきました。



■まとめられた７つのポイント

研究会で平氏より紹介されたNPO法人循環生活研究所の事例について、JCVN理事の志賀壮史により、地域住民の仲間を見つけ、わかり合い、協働していくときの考え方やポイントについて、下記のようにまとめられました。参考にしてください。

地域を巻き込むには？

■時間がかかる

まぁ、時間はかかります。信頼関係は一晩で築けるものではありません。一緒に汗を流したり、話したりしながら、ボチボチ仲間づくりをしていきましょう。

■だましてでも体験させる

正攻法の言葉（例：竹切りが必要です）だけでなく、楽しさやおいしさで活動にお誘いするのも効果的（例：バームクーヘンつくろう）。ホントのうそや詐欺はダメですヨ。

■無駄話とかも大事

「〇〇をお願いします」とかの要件のみのコミュニケーションだけでは、まるで会社みたいです。無駄話しながら、思いや気持ち、人となりなどを共有・共感できるといいですね。

■現場での活動を続けている

地域にはいろんな人たちがいます。だから「わかりやすいこと」はとても大切。現場での活動は体を使うし、成果が目に見えるので喜びやうれしさをわかちやすいです。

■違う人、いろんな人とやる

同じ考えの人とだけ活動すると、団体が外に広がりません。いろんな人と活動することで、あの人の得意技、この人の経験がつながっていきます。

■相談に乗る、相談相手を持つ

普通、相談は信頼している人にしかできません。相談に乗ることも、誰かに相談することも、信頼関係が育ちつつある証拠。どんどん相談しましょう。

■人を育てる

活動の技術や知識を持つ人が増えるのは、団体にとっても地域にとっても、きっといいことです。積極的に人を育て、みんながイキイキと活躍する地域を育てましょう。

特集

2014年2月11日：「再生する海岸林」リーダーミーティングを終えて

■リーダーミーティング「再生する海岸林」を終えて

志賀　壮史（JCVN理事／NPO法人グリーンシティ福岡理事）

今年のリーダーミーティングは「再生する海岸林」と題し、昨年に引き続き松原保全をテーマに開催しました。（玄界灘沿岸の松原保全団体の連携に取り組んでいるＮＰＯ法人グリーンシティ福岡との共催）

開催概要：
名称：再生する海岸林　～リーダーミーティング2014
日　時：平成26年2月11日（火・祝）13:30～17:00
場　所：福岡ビル９階大ホール
参加者：身近な環境保全、ボランティア活動に関心のある層　７０名

松原等の海岸林は、海風や飛砂から住宅地や田畑を守る役割を果たしています。海辺の暮らしを守る「堤防」のような存在です。「白砂青松」と呼ばれる歴史的・文化的な景観としての価値も高く、観光資源やレクリエーションの場としても多くの市民に親しまれています。しかし、多くの里山と同じように、松葉かき等の管理が放棄された結果、藪化やごみの不法投棄等の荒廃が見られる箇所が増えました。さらに松原の場合はマツノザイセンチュウとマツノマダラカミキリによる松枯れの被害が増え、各地で風景が一変するほどの被害が発生しています。歴史景観や防潮防砂の「堤防」として大切な存在である一方、防除のための薬剤散布については懸念の声も出ています。

玄界灘沿岸の松枯れ被害は平成２３年ごろから大きくなりました。しかし、これは多くの市民の関心を集めるきっかけになるかもしれません。環境保全ボランティアが活躍するフィールドの一つとして、今、重要なタイミングを迎えた「海岸林」について、各地の「よいきざし」を感じられる話題をお聞きしながら、みんなで語り合う。そんなイベントとなりました。

開会あいさつの後、四つの話題提供へ。コメンテータは、福岡市森林林政課の水落啓介課長。ご自身が樹木医及び松保護士でもあり、時にマニアックな質問、時にユーモアある感想を交えながら、充実したやり取りが続きました。

まずは「松葉を使った堆肥づくり」について、たいら由以子さん（NPO法人循環生活研究所）からの話題。地元の奈多植林会とも連携し、松葉かきで集めた松葉を堆肥化・活用していく試みが紹介されました（詳しくは、別記事を参照）。

続いて「被災地での海岸林再生活動」と題して、「苗木forいわき」プロジェクトを展開する塚本竜也さん(NPO法人トチギ環境未来基地)のお話。震災の時に防災林としての役割を果たしたクロマツの海岸林。各地からお越しになる復興ボランティアの方々と一緒に松原の整備をし、苗木を育成している活動です(詳しくは、別記事を参照)。

三つ目の話題は「アダプト制度による松原保全」。NPO法人唐津環境防災推進機構の藤田和歌子さんからお話をいただきました。唐津市のシンボルである「虹の松原」は延長4.5km、約100万本のクロマツが植えられています。落ち葉が溜まり富栄養化した土壌を改善するために、アダプト制度（区画ごとに担当する組織や団体が「里親」となって管理する仕組み）によって約50ヘクタールで保全活動が行われている様子が紹介されました。

最後は「海岸林の未来を語る対話の場」。地域ネットワーク「里浜つなぎ隊」の渡邊美穂さんから、壊滅的な被害を受けた糸島市芥屋地区の「幣（にぎ）の松原」の状況や、今後の保全策を検討していくために設立された「糸島市海岸林保全協議会」の取り組みについて。同協議会では、どうやって地域の意見を集めるか？いかに国有林を「解放」していくか？残すべき松原・転換する松原はどこか？といったことを、学識経験者、行政（国・県・市）、地域（行政区長）、ボランティア団体な

ど、多様な立場による協議が行われていることが紹介されました。
「おやつセッション」では、少し長めの休憩をとりながら、お茶やお菓子を楽しみました。この日、ご参加いただいた松原保全を実践する団体は１３団体。参加者間の交流も充実していました。
その後の「ワールドカフェ」では、テーブルごとにグループに分かれておしゃべりを楽しみます。２回の席替えを行いながら、話題は団体運営のこと、海岸林の将来像のこと、国有林のあり方のこと、など様々な方面に及びました。
最後のテーブルごとの一言発表から、主な話題を抜粋します。

- ファミリー巻きこみたい。３０～４０代がどう参加するか。企業が団体で参加するのが効果的なので、企業へのＰＲの専門力を育てよう。地域コミュニティにだけ依存していてはダメ。
- 自治会とＮＰＯの連携が必要。「子ども」には学校や地域の親子を通じて。
- 「何のために保全するのか？」保安林が不安林になっているのではないか？いろんな世代が入って、明るくしていこう！
- 若者、企業、子どもの受け皿になるといい。地元の「宝」を発見し、みがいていくのが大切。みんなが集まっているのが宝かもしれない。
- 松林がそんなに広い必要があるかどうか？松以外の防風林の可能性を考え、モデル林を作ってみてもいいかも？
- 心の豊かさが不足しているように感じる。心に響く活動で若者に伝えたい。「森」の仕事を取り戻そう。国有林を解放しよう。
- コミュニティは、松原に興味無いようで残念。松原は歴史的に大事。でもお金も人も不足しているようだ。地域で説明して、子どもに遊ばせよう。

この日、集まった成果の一つは、玄界灘沿岸で活動する松原保全団体による横のつながりができたことだと思います。今後もお互いに情報交換し、助け合える環境保全活動の輪を広げていきたいと思います。
当日お聞きした松原の情報や保全団体の情報は、共催団体のグリーンシティ福岡により「玄界灘松原マップ」としてまとめられました。ご希望の方は、お名前・ご住所・希望部数を下記までお知らせください。

特定非営利活動法人グリーンシティ福岡「玄界灘松原マップ」係
〒810-0022福岡市中央区薬院4-5-2ARKヴィラ薬院202
ファクス：092-215-3913
メール：info@greencity-f.org
（日本郵便株式会社のH25年度年賀寄付金配分事業の助成を受け制作しました。1部につき、平均的な1人1日当たりのCO2排出量6.0kgをカーボン・オフセットします。）

■松葉を使った堆肥づくり

平 由以子（JCVN 理事／特定非営利活動法人循環生活研究所理事長）

松葉でできた堆肥、農業残さ堆肥と並べて製造し比べてみると、形状にも多少の差異はありますが、ある時期、ミミズの数が多いことに驚いきました。堆肥をつくる場合、温度やかさはもちろん、周囲の生き物との関わりは重要なポイントです。

国際都市である福岡の景観は、玄界灘に望み、ゆるやかな曲線を描きながら延々と続く美しい海岸線が大きな魅力です。この松林は、人家や田畑の防風林として、地域の生活と密着しながら、厳しい環境の中で育み慈しまれてきたものです。近年、松くい虫の被害により、その風景は平成20年頃から一変し、福岡市全土で松枯れ被害が深刻な問題になっています。松林が暮らしの一部であり、遊び場であった世代は特に昔の風景を思い出し、胸を痛めています。この世代が中心となりこれまで地域の松林保全活動を実施し、長年地域で

の保全活動を支えてきました。しかしながら、メンバーの高齢化と具体的な解決策がみつからないまま、松林の衰退が加速化しています。全国各地でも同様で、地域連携保全活動が実施されつつも、発展的な松林の課題を模索している状況にあります。

こうした地域の課題に対して平成25年春、ようやく本格的にとりかかった「松葉の堆肥づくり」は、長年活動している堆肥づくりの専門団体としての、地域貢献と位置付けています。堆肥講座ではよく「針葉樹は堆肥になりません」と断言する人もいますが、正確には時間がかかるだけです。堆肥の世界では、時間、手間、手抜き、組み合わせ（自然に合わせるのか、人の手間を重視するのか、スピード）条件を決めていくだけで、基本、自然のものは土に還るのです。

白砂青松を取り戻すためのひとつの手段として、これまで堆肥化は難しいとされてきた松葉を堆肥化し、農業活用や市民農園での活用などで地域資源循環としてつなげることを考えています。これまでの活動から、もう一歩踏み込んだ具体的

な循環の仕組みを構築できればと思います。生物に配慮した営農活動や地元住民による松林管理活動など生物多様性の保全に資する活動と絡みながら、堆肥化を進めるにあたっては、調和が重視され、地域連携保全活動の促進への配慮などが求められます。自然的・社会的状況は、地域によって様々であるため、状況に応じて実施し、地域の住民や団体の求めるニーズに順応的に実施されることが重要であると考えています。今後、堆肥活動の経過など報告できればと思います。

■被災地での海岸林再生活動
～福島県いわき市の海岸林の取り組み～

塚本 竜也（JCVN理事／特定非営利活動法人トチギ環境未来基地理事長）

2011年3月11日の東日本大震災は、福島県いわき市にも大きな被害をもたらしました。この震災でお亡くなりになった方は455名（直接死：293名、関連死：125名）、建物の被害も90,000棟を超えました。自然環境も大きな影響を受けました。いわき市北部にある全長約9kmのクロマツの海岸林も、津波により倒され、塩害や地盤沈下により枯れが広がっています。しかし、いわき市の海岸林は防災林としての機能を果たしました。あの海岸林があったから、私の家は大丈夫だった。あの海岸林があったから、私は助かったなどの声が多く寄せられ改めてその価値が評価されています。

そのような状況の中、市民の力で海岸林の再生に取り組む「苗木forいわき」プロジェクトを地元いわき市の森づくりNPO、いわきの森に親しむ会の皆さんと一緒に2012年6月よりスタートしました。

海岸林の再生に必要な市民の力を、大きく３つの柱に分けました。１つは、海岸林の整備作業。現時点で国有林の海岸林だけでも約48haの被害となっています。枯れたマツの伐採、片づけ、藪となったところの刈り払い作業をボランティアの皆さんと一緒に行っています。整備が終わったところに、抵抗性クロマツを植林しています。植

林後の草刈りも重要な作業です。現地での整備作業にはこれまで3,000人を超えるボランティアの方々に参加いただきました。企業や労働組合単位での参加も多く得ることが出来ました。海岸林の整備作業は震災から3年と4ヶ月が経過し、NPOによる活動も減少していく中、ボランティア活動を通じた被災地と各地のつながりの受け皿ともなっています。２つめは、クロマツの苗木の育成復興に協力したいけれどなかなか現地に行って活動することが難しい、幼稚園児や小学生、福祉施設など80団体にご協力いただき、クロマツの苗木を約１年間育てていただいています。大きくなった苗木を海岸に植えています。３つめは、寄付。苗木の購入などプロジェクトに必要な経費も市民の皆さんからの寄付を財源としています。個人、企業にご協力いただき現在まで約3,800,000円のご寄付をいただいております。当面は24,000本の植林を目標としています。このように多くの方々の協力を集め、海岸林の再生を進めています。災害はどこで起こるかわかりません。被災地での海岸林再生活動への参加を通じて、自身の暮らす地域の自然環境について改めて考える機会としても生かしていきたいと考えています。

総会報告

■「これからの活動に向けて」

重松　敏則（JCVN 理事長）

JCVNは設立から既に8年(法人格取得より5年)が経過しました。これまでほぼ毎年、福岡県外を含む各地でのリーダー養成講座（座学・合宿研修）の開催、ならびに恒例の「リーダー・ミーティング」を実施してきており、また、シンポジュウムやセミナーへの講師派遣を通して、里山・里地の保全や循環型社会の構築に携わる多くの人材の養成や社会的啓発に大きく寄与してきたと言えます。さらに会報（本報で8号）の発行や書籍「よみがえれ里山・里地・里海（築地書館）」の刊行およびCD制作も行っています。

しかし時間や資金の限界もあり、助成を受けて実施してきたリーダー養成講座も参加者数は伸び悩んでいます。このような現状を改善するために、総会では平成２６年度の活動として、以下の取組みを進めることになりました。

①「安全に楽しく活動・運営できるリーダーズハンドブック(仮題)」の執筆・編集・刊行： これはJCVNがこれまで継続的に実施してきた実践的な「リーダートレーニング研究会」での配布資料等に基づき、理事が執筆分担する。

②「ローカル・アクション(原著BTCV)」監訳 重松敏則・翻訳 植田久子 が1999年に日本財団より刊行されましたが、絶版となっていました。しかし、内容が新たな環境保全グループの立ち上げや、既存の団体の活動・運営、ならびに行政や企業の担当者にとって大いに参考になることから、日本財団の承諾を得てJCVNより再版・刊行する。

③ニホンミツバチの蜂蜜販売： JCVNの運営資金とし、また販売を通してJCVNや環境保全に対する関心を高めることを意図しJCVNブランドの蜂蜜をイベントの際、またインターネットを通じて販売する。これは、理事長である筆者が趣味として飼育してきたニホンミツバチの蜂蜜生産が多量となったため、商品化のための各種法的手続きを行った上で、JCVN名義による物販を行うものです。

④会員及び賛助会員の増員： 現在JCVNの正会員は１４名、賛助会員３名、団体会員１団体である。事務局の安定化・強化を図るためにも、これまで通り「リーダー養成講座」や「リーダー・ミーティング」の開催、上記図書の刊行、 蜂蜜の販売等を通じて、新たな会員の入会を促進していく。

■総会報告

平成２６年６月１６日に、特定非営利活動法人日本環境保全ボランティアネットワークの第６回総会を行いましたので、ご報告いたします。

概要

日時：平成26年6月16日(月)18：00～19：30
場所：九州大学大橋キャンパス２号館会議室
（福岡市南区塩原4-9-1）
出席者数：理事５名　監事１名　正会員３名
（内、書面表決者２名）　計９名

欠席者数：正会員５名
審議事項：
議案第１号　平成２５年度事業報告
議案第２号　平成２５年度決算報告
議案第３号　役員の改選
議案第４号　平成２６年度事業計画（案）
議案第５号　平成２６年度収支予算（案）
議案第６号　特別代理人の選任について

（１）開会、成立確認、議長選出

定刻になり重松敏則理事長より開会のあいさつ、その後、定款２７条により本日の出席者７名、委任状による出席者２名、計９名は当団体正会員数１４名の５分の１を超えており、本総会は成立しているとの報告があった。また、定款第２６条に従い、理事　志賀壮史が議長に満場一致で選任され、各議案について審議した。

（２）議事の経過の概要及び議決の結果

・第１号及び２号議案について

資料をもとに平成２４年度の事業報告および決算報告がなされた。続いて、監事　毛利宗孝が監査報告を行なった。第１号議案・第２号議案に関し、小森理事より未払金について支払いが完了しているのかと、管理費中の会報作成・発送にどのくらい費用が掛かっているかについて質問があった。事務局より、未払金の支払いはすべて完了していること、また会報の作成については、１回発行する際の直接経費（印刷・発送費）が約30,000円程度である旨、報告がなされた。これらの内容を受けて議案第１号及び２号について一部修正し採決を行ったところ、全員一致で承認された。

・第３号議案について

議長から、現役員については平成２６年４月３０日をもって任期満了の旨説明があった。質問・意見を求めたところ現役員の再任としたい旨の意見があり、採決の結果、全員一致で承認された。

・第４号・５号議案について

資料をもとに平成２６年度事業案および予算案の説明がなされ、各事業の概要案について意見交換を行った。１）リーダーズガイドもしくはボランティアガイドの発行について、重松理事長より「ローカル・アクション」の日本語版をベースとした書籍の出版を目指してはどうかとの意見があった。協議した結果、書籍またはテキストブックいずれの形式にするかもふくめて、「リーダー育成に関する出版事業」として、今年度は検討していくことで合意した。また、３）リーダートレーニング研究会について、平成２５年度に開催した研究会の収支状況について小森理事より質問があり、事務局スタッフの人件費が発生する場合は毎回５千円ほど支出が収入を上回っているとの説明があった。６）JCVN認証プログラムの作成については、３）リーダートレーニング研究会のテーマの一つとして取り扱うこととなった。７）ハチミツ販売事業については、重松理事長の採取したハチミツをJCVNが販売する形式で行う旨確認された。

上記議論を受け、議案第５号および６号について一部修正を行った上で採決を行ったところ、全員一致で承認された。

・第６号議案　特別代理人選任について

理事重松敏則は、自ら飼育しているニホンミツバチの蜂蜜を、本法人の運営・活動資金に資するため、廉価で本法人に売却することで総会の承認を得た。重松敏則と本法人間で売買契約を締結することとなるが、重松敏則は本法人の代表でありこの契約の締結は利益相反事項に該当するため、この事項について代表重松敏則は本法人の代表権を有しない。したがって特定非営利活動促進法第１７条の４の規定に基づき、特別代理人を選任する必要がある旨を述べた。

これを受け、慎重協議した結果、全員一致をもって理事　朝廣和夫を特別代理人候補者として選任した。議長は、この候補者をもって福岡県知事に特別代理人選任請求することを一同に諮ったところ、全員異議なくこれを承認した。なお、被選任者は、福岡県知事の選任を条件に、その就任を承諾した。

（３）議事録署名人の選任に関する事項

議長から、議事録署名人２名の選出について諮ったところ、重松敏則氏と朝廣和夫氏を選任したいとの提案があり全員異議無くこれを承認した。

議長は、以上をもって本日の議案の審議を全て終了した旨を述べ、閉会を宣した。

お知らせ

イベント・ボランティア情報

●JCVNリーダートレーニング研究会

今年度も「リーダートレーニング研究会」を実施します。実践的な環境保全活動に資する、人材育成のプログラムについて考えます。みなさんのご参加をお待ちしています。

◇8/22 「リスクマネジメント事例研究」

と　き 平成26年8月22日　18時半～20時半
進行役 志賀壮史（JCVN理事）
　　小森耕太（JCVN理事）
会　場 福岡市NPO･ボランティア交流センター
　　（あすみん／福岡市中央区大名2-6-46）
参加費 （会員）無料　（非会員）1,000円

◇10/16 「地域を巻き込むにはVol.2」

と　き 平成26年10月16日　18時半～20時半
進行役 平 由以子（JCVN理事）、朝廣和夫
会　場 （未定）
参加費 （会員）無料　（非会員）1,000円

◇12/18「環境保全活動の評価」

と　き 平成26年12月18日　18時半～20時半
進行役 朝廣和夫（JCVN理事）
会　場 （未定）
参加費 （会員）無料　（非会員）1,000円

●JCVNのニホンミツバチの蜂蜜販売について

ニホンミツバチは日本固有の種ですが、明治時代以降は生産性の高いセイヨウミツバチに取って代わられてしまいました。しかし、山野の木の洞などの巣穴や一部の飼育家の巣箱に生息し、農作物や園芸作物、果樹をはじめ、里山・里地の種々の草木の花粉媒介に重要な働きし、生物多様性保全の役割を担ってきました。しかし、近年になってネオニコチノイド系農薬の散布によって、本種はセイヨウミツバチも含め巣群の全滅や衰退が問題となっており、農園芸業にも深刻な脅威になっています。このような中で理事長である重松が6年の試行錯誤を経て、現在3群のニホンミツバチを飼育しています。自宅で生産された蜂蜜をJCVNのブランドで下記のように販売し、収益を運営資金とすることになりました。

ニホンミツバチの蜂蜜（純粋・国産）
製造者　重松敏則(九州大学名誉教授)
　　福岡県糟屋郡志免町桜丘3-32-1
販売者　日本環境保全ボランティアネットワーク(JCVN)
中瓶(内容量 560g) 4500円　角瓶(360g) 3000円
小瓶(290g) 2500円　S瓶(190g) 1650円
送料　250g以内 250円　500g以内 400円　1Kg以内 600円
注文の振込み口座　ゆうちょ銀行　記号17450 番号22900 日本環境保全ボランティアネットワーク（瓶サイズと本数をご記入ください）

●JCVNの仲間を広く募集しています！

あなたの支援が、「いつでも」「どこでも」「だれでも」できる環境保全活動をめざした団体のネットワークづくりの力になります。入会申込書をご送付いたしますので、事務局までお問い合わせください。

- 個人正会員（¥10,000／年）
- 個人賛助会員（¥5,000／一口以上）
- 団体正会員（¥20,000／年）
- 団体賛助会員（¥10,000／一口以上）

JCVN理事をはじめ、環境保全活動の専門家のノウハウが詰まった会報が、年に4回お手元に届きます！また、メーリングリストでもJCVNが開催・協力するイベント情報等を随時ご案内いたします。

活動への寄付も受け付けています。環境保全団体のネットワークづくり、リーダー育成支援のため、皆さまのご協力をお待ちしています！

［会費・寄付振込口座］
番号：０１７６０－９－１２２４０７
名称：日本環境保全ボランティアネットワーク

CONSERVATION VOLUNTEERS　８
■発行日：平成２６年７月２０日
■発行頻度：年４回
■発行：特定非営利活動法人日本環境保全ボランティアネットワーク（略称：ＪＣＶＮ）
■事務局：〒810-0022福岡市中央区薬院4-5-2-202
tel/fax: 092-215-3966
e-mail: jcvn@greencity-f.org